

まとめの討論

松村雅文 (香川大学教育学部)

Discussion for Concluding Remarks

Masafumi Matsumura (Kagawa University)

Abstract

Reviewing the conference talks, we discuss further development of astronomy education and popularization. Two points are highlighted: improvement of astronomy education in school, and popularization of observations for Comet ISON.

最後のセッションである「まとめの討論」では、主に以下の2点について議論された。

【学校での天文教育についての今後の取り組み】 今回のメインテーマは「学校での天文教育を考える～連携の時代を迎えて」であった。根岸潔さんによる基調講演が行われ、テーマセッションでは8件の講演が行われた。またパネルディスカッションは、高校の『地学基礎』の教科書(全5社)の天文分野を記述した5名の著者によるパネルディスカッションが行われた。

これらの講演や議論などで明らかになってきたことは、従来、当会で議論して提出された要望書の内容が、実現してきたことである。1995年2月、当会は、文部科学大臣宛の「学習指導要領に対する要望」で、中学校の理科第2分野や、高校のどの地学の科目でも、恒星や宇宙についての学習が可能になるように要望した(参考文献を参照)。実際の学習指導要領の検討では、理解がある委員からの賛同があり、銀河系を学習内容に含めること(つまり当会からの要望)が実現したという(根岸さんの講演による)。しかし、まだ問題は残されており、例えば、地学基礎ではHR図が扱われずに太陽の進化が扱われるといったちぐはぐな点が見られる。

議論を行った結果、学校での天文教育について検討を行い、提言等をしていくことが必要であろう、という方向性が確認された。意見として、小学校1~2年の生活科は必要ないのではないかと、他の学協会(例えば日本地学教育学会)との連携が必要だろう、単に学校関係者のみならず、見識があるメンバーや関心のあるメンバーを巻き込む必要があるだろう、大学(特に教養)の天文教育も問題を抱えている、しかし現在の火急の問題は高校のカリキュラムの編成の問題であろう、といった意見が出された。これらのことを学校教育の分野委員に伝え、具体的に検討していくことになった。課題設定によっては、ワーキンググループ結成が必要であることも指摘された。

【アイソン彗星】 アイソン彗星は、2013年11月29日に近日点を通過し、肉眼で明るく見える可能性がある。直前のセッションの大西浩次さんと鈴木文二さんの講演を受け、当会で何ができるのかが議論された。学校の授業に生かせる方法など、当会だからこそできる情報発信が必要であるといった意見が出された。大西さんによると、9月中にワーキンググループを立ち上げたことのであった。今後については、大西さんと鈴木さんで調整して進めていくことになった。

【その他】 最後に、大西浩次さんから「いて座 A* 事象」についての天文教育普及活動についてのコメントがあった。この事象についての観測が、今後1年程度にわたって出て来ると予想されるので、2014年1月以降に対処したいとのことであった。

参考文献

“学習指導要領に対する要望” 「天文教育」第20号(1995年3月)、p.26

“要望書についての補足” 同、p.27